

[アーチェリー] 関東学生リーグ戦

男子Aブロック3位 女子1部残留決める

佐伯が東日本学生の出場権

3月25日から4月22日まで、関東学生アーチェリーリーグ戦が立教大ほかで行われ、男子は3勝2敗で1部Aブロック3位に終わった。

拓大、中大に連敗を喫したが、ルーキーの幾田将人(経営1・大宮開成高)が加わった第3戦の早大戦から3連勝を飾った。

女子は1勝4敗で1部Bブロック5位。5月6日に行われた成城大、芝浦工大、東洋大との1・2部入れ替え戦を制し、1部に残留した。

また、全日本学生アーチェリー東日本大会(5月26、27日、北海道野幌運動総合公園)に出場するリーグ戦のアベレージ上位26人が選出され、佐伯朋哉(経営2・大宮開成高)が出場権を手にした。「関東学生では直前に体調を崩してしまったので、体調管理を今まで以上に気をつけたい。東日本では昨年の8位を上回る成績を残したい」と話した。

(荻野 敦子・文3)

[アイスホッケー] 関東大学

1部8位で大会終える

4月7日から29日まで、関東大学アイスホッケー選手権が東伏見のダイードリンコアイスアリーナで行われた。22日の7位決定戦で東海大に敗れた専大は、1部8位で今大会を終えた。

初戦で日体大に延長の末1点差で勝利したものの、以降は3連敗。櫻井大樹主将(経済4・カナダ=ブロックセカンドリー高)は「実力が出せないのも実力。課題はキルプレー(ペナルティーで自チームの選手を欠いた状態)になったときの守りと攻め。それと決定力不足の改善」と語った。

(松本かおり・文2)

[バスケット] 京王電鉄杯10大学フェスティバル

優秀選手賞に喜多川 5勝4敗・5位で大会終了

4月29日から5月5日まで、京王電鉄杯10大学バスケットボールフェスティバルがトヨタ府中スポーツセンターで行われた。専大は5勝4敗、5位で大会を終え、優秀選手賞に喜多川修平（経済4・桐光学園高）が選ばれた。

大会最終日に行われた慶大戦。専大は立ち上がりからリズムをつかむと、一気に点を重ねた。試合中盤、ファウルがかさみ苦しむ場面もあったが、メンバー交代でしのぎ切り、74—63で勝利した。中原雄監督が「インカレ後からディフェンス面に力を入れて練習してきた」と言うように、今大会では堅い守りで相手につけ入るすきを与えず、攻守の切り替えも早く、練習の成果が表れていた。中原監督は「ゲーム中での動きを理解し、形になってきた。選手たちは「関カレ、で優勝したいと意気込んでいる」と話した。

（荻野 敦子・文3）

東都大学野球・春季リーグ戦

最終・駒大戦に期待

31回の優勝回数を誇る名門が、今季は苦戦を強いられている。5月14日現在、3勝8敗1分の勝ち点0と下位に低迷。

しかし、土本恭平(商4・土岐商高)が亜大戦で9回1失点の好投を見せるなど、明るい材料も多い。加えて、山崎大志(経営2・海星高)、久保田健仁(商3・明德義塾高)らの打撃も好調で、チャンスを逃さないバッシングに期待が持てる。最終・駒大戦に期待したい。



▲亜大戦で好投した土本

(田口 能成・経済2)

ユドラ号記念馬場馬術 大会

霧林・吉澤・西原が入賞

ユドラ号記念馬場馬術大会が4月21、22日にJRA馬事公苑で開催された。第4競技のFEIヤングライダー団体競技馬場馬術で、霧林舞(商1・市立前橋高)・ダーククリスタル号が6位、吉澤和紘主将(経営4・西宮香風高)・ゴールドミツル号が7位、西原郁人(経済4・札幌光星高)・ダンテ号が8位にそれぞれ入賞した。

(加藤 未希・文3)

東建ホームメイトカップゴルフ

上田さん（平8商）悲願の初優勝

男子ゴルフツアーの開幕戦・東建ホームメイトカップ（4月12～15日、三重県東建多度CC名古屋）でゴルフ部OBの上田愉尉（ゆい）さん（平8商）、スポーツニッポン社提供だが、プロ11年目にして悲願のツアー初優勝を遂げた。初日を66のトップタイで終えると、2日目以降も65、74、71でまとめ、通算8アンダーで初日から首位の座を守り切り、完全優勝を果たした。

東工大、関東学院大に連勝

アメフト川崎シリーズ開幕

春季オープン戦「川崎シリーズ」が4月14日から開幕。初戦は東工大に24—6で快勝、続く関東学院大戦（4月29日）にも6—0と連勝した。

「接戦になるのは予想していた」と冷静に語る岡潔監督。「新人の活躍する時期での接戦は覚悟の上。今回はウチが粘って勝たせてもらった。2戦を終えて、オフェンスに少し元気が足りない。次は“点を取る”ことを意識して臨む」と話す。

新入生の活躍がチームを引っ張り、上級生の安定した力がチームを底上げする。勢いよくスタートを切ったグリーンマシーンの今後が楽しみだ。

（加藤 未希・文3）

少林寺拳法・関東学生

山本・益満組に優秀賞

5月4日、日本武道館で少林寺拳法関東学生大会が開かれた。男女組演武初段の部で山本有里(経済3・瑞陵高)、益満隆行(文3・神代高)組が創部初となる優良賞(3位に相当)を受賞したのをはじめ、団体演武や段ごとに行われる組・単独演武でも多くの部員たちが本戦へ駒を進め、大いに奮闘した。

(少林寺拳法部主務・益満隆行)

山岳部 錬成合宿

北ア立山・雷鳥沢で

1年次生に残雪期の登山を経験してもらうことを目的とした山岳部の錬成合宿が5月3日から5日まで、北アルプス立山の雷鳥沢で行われた。

コーチ1人と4年次生2人、1年次生1人が参加して、初日は雪上での活動になれるための訓練に費やし、2日目は真砂岳、大汝(おおなんじ)山(3015メートル)に登頂した。



▲大汝山山頂で

準硬式野球関東地区大学

投・打のバランス最高 決勝は日大と

関東地区大学準硬式野球選手権が4月1日から行われている。専大はトーナメントを順調に勝ち進み、4月10日の準決勝では中大に5―0で勝利し、決勝へと駒を進めた。ここまで4試合で計34点を上げている打撃陣と、いまだ無失点の投手陣。天候不良のため延期となっている日大との決勝戦(リーグ戦終了後)も楽しみだ。

また、3月29日に開幕した東都大学準硬式野球春季リーグ戦は5月14日現在、5勝4敗。5月23日の最終戦へ向け、白星を重ねてほしい。

(有馬 利香・商3)

ラグビー・「SEVEN A SIDE」

コンソレーション戦を制す

7人制・7分ハーフのラグビー大会「SEVEN A SIDE」が4月15日、多摩市宮陸上競技場ほかで行われた。専大は大学リーグ戦(1、2部)加盟校16チームによるAグループに出場。1回戦で立正大に惜敗したものの、コンソレーショントーナメント(敗者戦)を制した。

榎本邦夫監督は「1、2年次生を中心に戦ったが、選手たちはしっかり体を作ってきている」と語り、今大会で主将を務めた永下安武(商4・天理高)は「ここで課題を見つけて立て直し、冬のリーグ戦で結果を残します」と力強く語った。



▲巧みなステップで相手をかく乱する永下。右は厨龍

(松本かおり・文2=写真も)

リーグ戦途中経過

5月14日現在

【サッカー部】

関東大学リーグ戦(2部=4月1日～5月27日、古川市立古川サッカー場ほか)は第9節が終了し、4勝2分3敗の勝ち点14で4位。9得点でゴールランキング1位の荒田智之主将(商4・清水東高)を中心とした攻撃陣が好調だ。

【バレーボール部】

春季関東大学リーグ戦(2部=4月14日～5月12日、東京体育館ほか)は、4勝3敗の4位で上位リーグ進出を果たした。上位リーグでは、昨秋の3位を上回る成績を目指す。

記録コーナー

◇剣道部

▽関東学生選手権(5月6日=日本武道館)在本悠作主将(法4・西大寺高)=ベスト16

※敗者復活戦を勝ち上がった植木大地(文2・島原高)とともに全日本学生選手権の出場権を獲得。